

ロードレーサー

中根 英登さん
(31歳、森岡)



プロフィール

大学から本格的に自転車競技をはじめ。在学中にヨーロッパのチームに所属し、プロ選手生活をスタート。世界最高峰チームの1つであるEF エデュケーション・イージーポストに所属し、クライマー*として活躍。 ※長距離の登り坂を得意とする選手

フランスで行われたレースでの1枚。レース終盤に集団けん引というアシストの仕事をしているところ。(提供: 中根さん)



自転車競技界で最高峰に位置するチームを「ワールドチーム」と呼ぶ。そこに所属できる選手は、全世界で約600人。その中の1人が中根さんだ。

幼い頃から目指していたのかと思いきや「まさか、自分が自転車競技のプロ選手になるとは…」と振り返る。なぜ、自転車の道を歩むことになったのか？

「サッカーが大好きで、サッカー選手になるのが夢でした。そして、父は自転車競技で名の知れた人。心のどこかで二つのことはやりたくないと思っていたね」。

高校生のとき、自転車競技の漫画にハマったことがきっかけで、サッカー部に所属するかたわら、思いつきで自転車競技のインターハイ予選に挑戦。「そしたら勝ってしまった(笑)。インターハイでは10位くらいでゴールすることができ、本格的に自転車をはじめました」。

中根さんにとって自転車競技とは何かと聞くと「始めた当時、自転車は1番好きなものではなかったけれど、自分の能力を発揮できたもの。得意なことを見つけて、得意なことを見つけている」と話す。

日本では、自転車競技はまだまだマイナースポーツ。どんな競技なのか。「豪雨や強風でもレースは行われ、過酷で苦しい競技です。1日4〜6時間走り、総走行距離が約300kmに及ぶこともあり、気温0度で土砂降りの中、震えながらレースを行い、低体温症に

なったというエピソードからも、レースの過酷さがうかがえる。

最後に魅力を聞いてみた。「自転車のスピード感です。エンジンではなく人力で自動車並みの速度を生み出すのはすごいと思います。また、テレビなどでレースを見る際は、自転車に興味があっても、開催地の風景を楽しむものもおすすめです。そこから『自転車っておもしろそう』と思う方が1人でもいたらうれしいですね」。

